

‘染井吉野’切枝の樹皮表面の形状や着生植物が クビアカツヤカミキリの産卵選好に与える影響

法眼利幸, 小田奈津子¹

和歌山県林業試験場

Effect of twig surface shape and epiphytes of a cherry tree, *Prunus* × *yedoensis* on ovipositional preference of red-necked longhorn beetle, *Aromia bungii*

Toshiyuki Hougen, Natsuko Oda¹

Wakayama Prefectural Forestry Experiment Station

摘 要

樹皮の状態が異なる‘染井吉野’の切枝を用いてクビアカツヤカミキリ成虫の産卵選好性を評価した。樹皮表面が粗く隙間の多い枝と樹皮表面が滑らかで隙間の少ない枝を、クビアカツヤカミキリ成虫の入った同一の容器内に入れて産下卵数を比較した。表面が粗く隙間の多い枝が滑らかで隙間の少ない枝に比べ産下卵数は多かった。同様に樹皮上の着生植物を除去した処理枝と、除去しない枝（無処理枝）を比較したところ、無処理枝が処理枝に比べ産下卵数が多かった。樹皮上に着生植物のみられる枝について場所別に産みつけられた卵数を比較したところ、地衣類下はコケ類内と樹皮に比べて有意に多く、コケ類内は樹皮に比べて有意に多くなった。サクラ属樹種の樹皮の形状は、種、齢、生育環境などによって異なると考えられる。クビアカツヤカミキリの産卵選好性はそうした樹皮の形状に加え、着生植物の有無、種、付着状況も加えて総合的に考察する必要があることが明らかとなった。

¹2023年3月31日退職